

WEEKLY SIGNAL

平成31年2月15日(金) 1462号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	2/18(月)	2/19(火)	2/20(水)	2/21(木)	2/22(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 600	ト ン	△ 1,000	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 9,000	+ 3,000	△ 20,000	+ 2,000	△ 3,000
資金需給	△ 8,400	+ 3,000	△ 21,000	+ 1,000	△ 4,000
主な要因	10年物価連動国債発行 国庫短期証券(3M) 発行・償還	交付税特会借入・償還	国庫短期証券(1Y) 発行・償還 国債発行(20年)		
オペ期日	共通担保(全店) △ 700 CP等買入 △ 200 国債補充供給 + 200				
オペスタート	共通担保(全店) + 700 CP等買入 + 2,000				
(日本)	機械受注(12月、1-3月見通し)		貿易収支	対外・対内証券投資(2月10-16日) 全産業活動指数(12月)	消費者物価指数(全国、1月) 日銀営業毎旬報告(2月20日現在)
(海外)	米 株式、債券市場が休場	米 クリーブランド連銀総裁の講演 米 NAHB住宅市場指数(2月)	米 FOMC議事要旨(1月29-30日分) ユーロ圏 消費者信頼感指数 (2月、速報値)	米 アトランタ連銀総裁の講演 米 耐久財受注(12月) 米 中古住宅販売件数(1月) 米 ファイデルファイ連銀製造業景況指数(2月) 米 新規失業保険申請件数(16日終了週)	米 ニューヨーク連銀総裁の講演 米 セントルイス連銀総裁の講演 欧 ドラキECB総裁の講演(イタリア) ユーロ圏 CPI(1月、改定値)

【インターバンク市場】

<インターバンク>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

日銀当座預金は週初、378兆1,600億円から始まった。その後、同残高は財政等要因により375兆円台まで減少したものの、週末となる15日には年金定時払いを主因に384兆7,100億円まで増加した。無担保コールON物の加重平均金利は週初△0.049%から始まった。積最終週であったが、最終日に年金定時払いを控えビッドサイドが慎重な調達姿勢になったことで、同加重平均は週を通して低下基調となり15日には同金利は△0.057%となった。ターム物は1~2W物を中心に、主に△0.02%~△0.03%台での取引がみられた。来週は国内では、全国消費者物価指数の発表(22日)、海外ではFOMC議事要旨(1月29-30日開催分)の公表(20日)、ニューヨーク連銀総裁の講演(22日)などが予定されている。

【オープン市場】

<C P>

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.23 ~ △0.18
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約6,300億円で、週間償還額(約8,400億円)に対し償還超となった。発行市場は、連日まとまった案件が見られたものの、発行社数が少なくやや取引閑散であった。市場残高は、14日現在21兆円を割り込む結果となっている。発行レートは、投資家の強い運用ニーズは変わらず0%のレンジで推移している。13日にオファーされたCP等買入オペは、予定通り2,000億円で実施された。前回オペからの間隔が短く応札額は減少し、按分レートは△0.001%と前回比横這いとなった。来週の償還総額(2/18~2/22)は、4,000億円程度となっている。発行市場は、5・10日発行が予定されるものの、一般事業法人の継続案件がやや減少しており、償還超が予想される。発行レートは、期内物では0%近辺での出合いで、期越物では0%からマイナスレートでの出合いとなる。

<TDB>

今週の国庫短期市場は目立った動きは無く小動き。買入オペが前週の2,500億円から5,000億円に増額されたが、市場では織り込まれており、影響は限定的であった。15日入札の3M814回債は最高落札レート△0.1954%(前回債△0.2012%)、平均落札レート△0.2106%(同△0.2158%)と、前回債と同水準の結果。週末のセカンダリー市場は新発3M・6M物共に△0.205%程度と入札水準での出合であった。来週は19日に1Y、22日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.08%~△0.09%から始まり、新しい積み期間にかかる15日受渡しでは△0.12%~△0.13%に低下した。短国3Mの発行日である18日受渡しは前場△0.12%近辺、後場は△0.11%台まで上昇した。SC取引では10年351回債のbidが多く、週を通して△0.10%台後半が出合いの中心。5年138回債は、入札日前日△0.10%台前半で多く取引された。その他2年394・395・396・397回債、5年135・136・137回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・352・353回債、20年164・165・166・167回債、30年59・60・61回債、40年10・11回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。